

# 火災の危険、そのままに していきませ んか

その習慣、  
危険です！



消防局キャラクター  
火消しまさむね君  
(伊達家伯記念會協力)

## 油断が招く火災を無くす ために

市で令和2年に発生した総火災件数は251件。過去5年間の総発生件数は横ばいが続いています。が、うち4割を占める住宅火災は、前年と比べ増加しています。

冬は、1年の中で最も住宅火災の発生が多い季節です。空気が乾燥することに加え、ストーブ等の暖房器具を使用する機会が増えることから、火災が起こりやすくなります。少しの気の緩みや不注意が出火につながるからこそ、日頃の習慣を見直して、火災を未然に防ぐことが大切です。

万が一火災が発生したら、早期発見に重要な役割を果たすのが、住宅用火災警報器です。市では警報器の設置を、新築住宅は平成18年、既存住宅は平成20年より義務化しましたが、警報器の交換の目安となる10年が経過して、既に寿命を迎えている恐れがあります。もしもの時に警報器が正常に作動するように、交換時期の把握や定期的な点検に努めましょう。

火災は、命や財産を失う重大な結果を招くこともあります。火災を引き起こす危険性が、自身や身の回りにないか、改めて確認しましょう。

## 当てはまるものがひとつでもあったら見直しを！



### 住宅用火災警報器の点検を一度もしたことがない

正常に作動しない場合があります

- 月に1回、電池切れや故障が起きていないか点検しましょう

作動ボタンを押して、音が出ることを確認すればOK！



▲ボタン式のほかに、ひもを引っ張って点検するタイプもあります

- 警報器は、ホームセンターや家電量販店、電気工事店等で購入できます



### 長年使用している電気器具がある

経年劣化による発熱などが、火災を招くことがあります

- 器具に異常を感じたら、買い替えを検討しましょう
- コンセント周りには清掃し、使用しないプラグは抜きましょう



### 火の元の回りに物を置いている

目を離した際に接触して、出火する危険があります

- 火の元を離れる場合は、必ず火を消しましょう
- 電気ストーブも、布団などと接触して出火する場合があります



### 片付けようと思ったものを放置したまま

延焼や放火の原因になります

- 物が多く散らかった状態だと、炎が燃え広がりがやくなります
- 家の周りに放置したままの物や、夜間に捨てたごみに放火された事例もあります



出火原因は今も昔も大きく変わりません。「自分は大丈夫」と油断せず、大切な命や財産を守りましょう



この特集に関するお問い合わせは、消防局予防課 ☎234・1111、FAX234・1411